

## 業界短信

(26年8月～9月)

### 太陽シャーが安全大会、地域自然災害「高い防災意識必要」(産業新聞、8/29)

太陽シャーリング㈱(広島市、浅利重法社長)は27日、安全大会を開催、社員や株主、取引先など約120人が参加した。冒頭、参加者は20日に広島市北部で発生した豪雨災害の犠牲者に対し黙とうをささげた。

### 三幸金属、自社加工月平均1.8万トへ。前期売上145億円、今期横ばいを計画(産業新聞、9/8)

㈱三幸金属工業所(堺市、楠本雄宏社長)は、前7月期業績と今期計画を明らかにした。前期業績は集計中だが、売上高は約145億円、経常利益は4億5千万円となった模様で、今期は前期並み水準を予定している。加工の高品質と、即納対応を武器に自販を維持するとともに、極厚・広幅対応の設備を活用し、受託加工量も拡大させていく。自社加工量は最低でも月間平均1万8千トを目指す。一方で時間当たりの生産性向上を図るなど、コスト低減を進める。

### 三和鐵鋼、災害発生時の対策強化。安否確認訓練追加、システム移設も(産業新聞、9/8)

三和鐵鋼㈱(海部郡飛島村、高木唯夫社長)は、災害発生時の事業継続対策(BCP対策)を強化している。敵的な避難訓練に昨年から安否確認の訓練も追加。パソコンサーバーの上層階への移設なども行い、地震や津波などの災害から社員や管理システムを守るとともに、その後の復旧も可能な限り早めることで、事業継続性の確保に努めていく姿勢だ。

### 小谷鋼業、対中鋼材輸出が順調、鉄骨・プラント8月1000トに(産業新聞、9/9)

小谷鋼業㈱(大阪市西淀川区、小谷浩史社長)は、2011年から中国向けに鋼材輸出を行っているが、今年6-8月の輸出量は一定水準を達成した。中国で日本向けの鉄骨・プラントを製作する企業に材料供給しているもので、輸出量は、6-7月が月間300トン程度、8月は1000トン近くとなった。同社の直近の月間加工量は、自社が1500ト、外注に700ト程度出している。

### 菰下鋳断、調質用熱処理炉が本稼働、高付加価値品の取扱拡大へ(産業新聞、9/9)

㈱菰下鋳断(貝塚市、菰下千代美社長)は、本社工場に調質用熱処理炉1基を新設し、このほど本格稼働を開始した。同社が強味を持つ極厚板や特殊鋼の溶接加工、既存の熱処理炉による焼ならしと焼なまし処理に加えて、焼入れ・焼戻し処理までを自社で一貫して行うことにより、納期や品質管理の徹底とコスト競争力の向上などで、より付加価

「業界短信/H26年8月～9月」

値の高い分野の事業拡大を目指す方針。

**茨城スチールセンター、車向け部材の冷間鍛造成形の前処理能力を強化。ボトルネック解消、需要増に対応（鉄鋼新聞、9/10）**

茨城スチールセンター㈱（茨城県那珂市、村田寛和社長）は、金属プレス加工部門における冷間鍛造成形の前処理工程にあたるショット・ボンデ処理能力を強化する。受注増に対応するため、今年11月末頃をめどにショット及びボンデ処理装置を増設し、2ライン体制とする計画である。

**栃木シャーリング、バッテリーフォークの「フレーム」、2～3トントラック車用も生産。コマツから移管、専用ライン新設（鉄鋼新聞、9/17）**

栃木シャーリング㈱（真岡市、近藤剛司社長）は、バッテリー式フォークリフトの重要部位である「フレーム」の一貫生産体制を拡充した。主要顧客で株主でもあるコマツから、従来の1トントラック車に続き今回、2～3トントラック車向けについても生産移管を受けた。

**アカシ、厚板加工量が回復、売上もリーマン前射程（産業新聞、9/29）**